

令和7年度第3回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 令和7年8月7日（木）14:00～14:45

2 場 所 福知山公立大学4号館4階会議室

3 出席者

委員	（リモート参加）青山委員長、大久保職務代理 （会場参加）菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	田村室長、森下次長、妹尾係長、塩見主査、吉田職員
福知山公立大学	川添学長、西田副学長、倉田副学長、辻事務局長、大江課長、竹元課長補佐、杉本主事

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 令和6年度に係る公立大学法人福知山公立大学の業務実績に関する評価結果について	評価委員会での意見交換。最終評価の決定。
2	【報告】 公立大学法人福知山公立大学財務諸表承認及び剰余金の使途について	事務局から【資料3】により財務諸表の承認及び剰余金の使途における今後の取扱いの説明。
3	【その他】 公立大学法人への報告と学長からの意見	評価結果について、評価委員長から学長へ報告。

5 会議内容

議題 令和6年度に係る公立大学法人福知山公立大学の業務実績に関する評価結果について

【法人未入室で協議】

（委員）

- 令和6年の公立大学法人福知山公立大学の業務実績に関する評価について、我々評価委員会で実施した評価に対して、公立大学法人福知山公立大学から意見はなかった。改めて、評価委員の皆様の評価についての意見、質問等があれば伺いたい。

（委員一同）

- 意見無し

（委員）

- それでは、前回皆さんと議論をした評価結果を最終的な業務実績評価書として原案通り確定する。

本委員会終了後、この評価結果を福知山市副市長に報告するとともに、公立大学法人福知山公立大学にも通知することとする。

報告 公立大学法人福知山公立大学財務諸表の承認及び剰余金について
(事務局)

- 資料3のとおり、財務諸表については適正に処理をされていることを確認したため承認することとする。
- 剰余金について、業務実績評価書の全体評価結果がAとなり、業務を行っていないと判断されるC判定とならなかったため、剰余金の使途について内容を精査し、今後、福知山市で目的積立として認めるかどうかの判断を行う。

【法人入室後】

(法人)

- 今回の業務実績評価については、全体として極めて高く評価されたと考えており、大学から意見して反論すべき点はなかった。
- 年度計画の記載方法、報告の記載方法など、まだ不十分な点があることは承知しており、これから工夫の余地はあるが、昨年度の事業の中身について評価いただけたことを感謝する。

(委員)

- 今回、業務実績評価を行った委員の皆さまからコメントをお願いしたい。

(委員)

- これまでも評価委員会で申し上げてきた通り、取組み自体は非常に素晴らしい。教育、研究、社会貢献、全てにおいて、教職員に限られる中で設置者である福知山市や市民の皆さまと連携して、絶え間ない努力をされている点は大いに評価する。
- ただ、評価委員という、外部に説明責任を求められる立場でコメントをすると、非常に評価に苦慮した部分があった。評価の透明性・客観性確保という点で、年度計画にも業務実績報告にも具体的な記述が必要である。
- また、目標の設定と成果測定の改善が必要である。達成可能な目標であるかどうかは、組織のモチベーション維持にもつながる。法人の使命、方向性との整合性という点でも、このフレームワークが非常に大事な機能だと思う。6年間の中期計画期間で1タームが回るので、期限の中で進捗管理をすることで、ガバナンスが発揮されるとも考えている。
- 今回、ほとんどの項目でいい評価が付いたが、逆に言うと改善すべき点がぼやけて見えないという結果になった。大学法人も一経営体であるので、強いところだけではなくて改善すべき点もあるはずなので、それを特定して次年度以降にフィードバックすることでこのフレームワークを生かしていただきたいと考えている。これを公立大学法人福知山公立大学の皆さまにも認識していただきたい。これが法人内の信頼構築、や、設置者である福知山市、また、市民との関係性の構築につながると思う。特に一昨年から小項目評価を5段階から4段階にしたことで、ある意味で言うとエッジが効かないボヤけた評価になっている。より一層、年度計画の策定時に、客観的にみて評価が

しやすいような項目を入れていただく必要がある。つまり、場合によっては数値目標を入れて、それに対して上回ったのであれば、なぜ上回ったのかというような根拠を示していただく必要がある。

- 自己評価に対する評価委員会からの質問項目については非常に真摯に詳細に回答いただいた。回答書を以って今回の評価を固めたという点では良い回答書を返していただけたと思うが、できたら質問がなく、回答書がなくても適切な評価ができるのが本来のあるべき姿であると思う。
- 他大学の中期目標・中期計画の成果指標について参考にしてもらい、これからも良い法人作りに努めていただきたい。

(委員)

- 一年間たくさんの事業をされ、地域に根ざした大学になるよう努力をされていることに敬意を表する。
- 評価をした結果、「地域・社会貢献に関する目標を達成するための措置」と「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置」という部門がS評価になっている。地域貢献がしっかりできている、学内の評価体制もしっかりしてきている、評価書も年々読みやすくなって大学の中でしっかり揉まれたものが出てきているとイメージとして感じていた部分が、小項目評価を読んでいると実感できる。イメージと結果が一致して、その結果が評価Sに繋がっているという感想である。
- 2点、気になることがあり、一つは今期中期計画を立てる時に「福知山モデル」について、「福知山モデルとは何か？」ということが随分議題になったが、結局それをこの中期計画期間の6年間で試行錯誤して見つけ出そうということでスタートした。しかし、振り返ってみると、「我々が考える福知山モデルとはこういうことである」ということをしっかり定めたうえでスタートしていた方が、それに向かって努力できたかもしれないと今になって感じる。今期中期計画期間も3年目が過ぎたところで、そろそろ「福知山モデル」として我々が目指すところは具体的に何なのか、今年か来年には整理ができた方が、残りの中期計画期間後半、研究、あるいは教育で、的確にそこへ向かって経営できるのではないかと感じた。
- もう一点が、志願者確保の部分で、この大学に行きたいという志願者が増えることが、憧れる大学になることとイコールになるのではないかと思います。地元からの志願者が増えることについて、引き続き努力をいただきたい。

(委員)

- 地元の志願者も当然であるが、地元以外の地域の方も含めて多くの方に志願してもらえる大学として、これからも継続して努力をしていただきたいと思う。地域に大学があり学生がいることがまちの活気になり、まちの魅力にもなっていると思っている。福知山公立大学があって「やっぱりよかった」という状態がこれからもずっと続いてほしいと思うと、やはり志願者をしっかり確保していただくということが当然望ましいと考えている。志願者確保のための努力はこれまで以上に続けていただきたい。
- 出口戦略で、就職や進学についても、今も良い実績を上げているという報告があるが、今後も努力を続けていただきたい。そのことが、大学が当然のように福知山にあって、福知山になくてはならないものとして定着して、良いサイクルができて、地元からの志願者数増加にもつながっていくと思うので期待している。

- 引き続き大学が地元に着定して、これからも地域に根差した大学として続いていくことを期待したい。

(委員)

- 評価をして、福知山公立大学が様々なことに努力して取組んでいることが分かった。普段生活している中で公立大生との接点もあるが、まちの雰囲気も「学生のまち」といった雰囲気が年々高まっていると感じる。一般の市民の方からも良い評価を受けていると思う。これからもより一層、地域に開かれた大学になってほしい。
- 国際化支援の部分で、海外の大学との交流、短期留学の送り出し、留学生の受入れというような、グローバルの視点を持った学生を育てることをされているが、まだそこがうまくいっていない。もし福知山市に留学生がたくさん来て、公立大学から提携する大学に留学できるということになると、大学の一つの魅力になると思う。それはひいては地元地域から福知山公立大学に進学しようという意欲にも繋がっていくと思う。今回、台湾やベトナムの大学と連携をされたという事であったが、どんどん広げていただきたい。
- 高大連携について。福知山高校と連携協定を締結したとあったが、北部地域の公立高校、私立高校には情報学部につながるような勉強している高校が他にもあるので、どんどん連携協定先を増やしていただきたい。
- 学生の下宿やキャンパスライフの充実について、大学のキャンパス環境も含めて、安く学生生活ができる環境の整備、学生の支援や支えを充実させるように頑張りたい。
- これからもまちの発展の核として頑張りたい。

(委員)

- 今回、評価をさせていただき、特に地域貢献の分野では素晴らしい実績を上げられている。これは「福知山モデル」の重要な要素であると思う。実質的にはこの地域貢献が、地元の大学なのだと皆さんに思っただけが一番重要な要素で、地元の高校生達が憧れる大学になっていくという意味でも重要な要素だろうと思う。
- 二番目に申し上げたいのは、地元の若い人たちが憧れる大学になること。要するに大阪、東京へ行きたい、都会の生活をしてみたい、ということよりも、福知山市にいたい、福知山市に公立大学があって、その中で、素晴らしい先生がおられ、その先生達から学びたいと思ってもらえるような大学作りをぜひ進めたいと思っている。その意味では情報学部を作られ、大学院地域情報学研究科を作られ、文理融合を実現できるような体制が作られつつあることは良いことだと思う。
- 過去年度の評価委員会でも再三申し上げてきたが、これからの時代はデジタル化を通り越してAI化が重要である。AI化を今後どう推進するかで、重要なことは、AIというパッケージあるいはアプリを導入すれば良いという事ではなく、小さなコミュニティ単位でAIが使える人たちがどんどん増えるという事と、その先に新しい想像力が生まれてくることである。実際の企業の現場でもAIの活用が進んでおり、これからの非常に大きな流れになってくる。
- 地域経営学部と情報学部を文理融合でうまく地域の中で機能させていきたい。そうやって大学の特色をうまく生かすことで、少子化で多くの大学が定員割れをする中、「福知山公立大学はいつも定員を超えて志願者が集まっている。だから福知山公立大

学をめざしたい。」という動きが出てくると思う。

- 一点苦言を申し上げると、以前から申し上げているように年度計画の作り方がまだ評価しづらいものになっている。年度計画の表現を見ると、毎年同じ記載内容でも結果が変わらないのではないかと思える部分がある。特に今年の評価委員会では、法人で自己評価を4とされた部分について、評価委員の評価も割れて、大きな議論になった。結果として法人の自己評価と評価委員会の評価が異なる箇所は1項目のみとなったが、実際は自己評価通りの評価とした項目でも、評価委員会の中では議論になった。

年度計画とその実績を比較すると、実績ではアンダーラインを引いて強調してあっても、年度計画を見たときにはそのことに関して何も書かれていない。しかし、何も決まっていなかったかという、そうではないと思う。

年度計画に薄く記載しておいて実績をしっかりと書けばいい点数が付くと思ったわけではないと思うが、実績は客観的に見て素晴らし結果であるので、評価委員会として評価をする中で、ここまで多くの事業を実施して実績に書けるのであれば年度計画にも記載できたのではないかという意見が多く上がった。実績と計画を同じレベルで書けるとは思っていないが、例えば科研費のような競争的資金を獲得するという項目では、一定目標を作ってそれをめざすという事を、年度計画の中に記載していただきたい。今年度の事業はもう始まっているので、今年度事業計画の細かいところまで我々が関知するところではないことは理解しているが、今年度事業計画の中でも年度計画のところを非常に簡素に記載されているところがたくさんあると思う。

- 毎年評価委員会を実施するというのは今中期計画までで、次期中期計画期間では、期間中に中間評価を1回しかしないということになってしまう。そうすると、その評価実施時期までは1つの目標に向けて業務を実施していくことになるが、年度計画、年次計画を一生懸命立てていただくことが、大学をより良くしていくための一つのステップになると考えている。大学法人の経営においては実績さえ上げればよいというものではないと思う。もちろん時間も手間もかかるということであるが、計画策定という面では頑張っていたいただきたいと思う。
- 全体的な評価としては間違いなく地域にとって非常に重要な貢献をしておられる。先生方も本当に寸暇を惜しんで地域に出て行って色んな活動をされていると読み取れた。文理融合でやっていることは、これからの未来の社会に繋がるようなとてもワクワクするような部分がたくさんあると思うので、そういった部分をさらに強くしていただくことが、まさに「福知山モデル」の実現ではないかと思う次第である。